

平成27年度 施策評価表

課・グループ名	保健福祉課健康子育てグループ 住民課医療介護グループ
---------	-------------------------------

作成年月日：平成28年8月29日

施策名	①成人保健対策の推進と充実 4-2-①		
1. 施策の現状分析及び展開方向			
政策・施策の体系	大項目	中項目	小項目
	4. 健康的で自立した暮らしを支える保健福祉と医療の整ったまちづくり	(2) 町民の健康予防対策	①成人保健対策の推進と充実
①施策のねらいと展開方向	<ul style="list-style-type: none"> ●特定健診未受診者に健診の重要性について、積極的な情報提供を図り、30歳代・40歳代から早期の受診定着化を進め、受診率の向上に努めます。 ●町民一人ひとりが、自分の健康管理に取り組みやすいよう、保健師や管理栄養士の専門性を生かし、「適正な食事摂取」「運動習慣」等、具体的な保健指導を行います。 ●がん検診において、多くの人が受診できるよう体制整備及び検診勧奨を行うとともに、精密検査未受診者の勧奨にも努めます。 ●後期高齢者の各種健診未受診者に対し、生活習慣病の早期発見や予防のための定期的な健康診査の重要性についての周知に努め、後期高齢者の健康管理の促進を図ります。 		
②施策の現状と課題	現 状	課 題	
	<ul style="list-style-type: none"> ●いきいきと健やかな生活を送るため、健康寿命の延伸を目指し、平成25年度からスタートした南幌町健康づくり計画（第2期）と特定健康診査等実施計画（第2期）に基づき、生活習慣病の一次予防や合併症の発症、症状の進展などの重症化予防を重視した取り組みを実施しています。 ●健康教育・健康相談は、訪問指導のほか各種団体の要望に応じて実施しています。特に、生活習慣病に焦点をあて、動脈硬化から引き起こされる病気を予防しています。 ●国のがん検診推進事業（子宮がん・乳がん・大腸がん検診無料クーポン券配布）により、新たな受診者が増えています。また、町独自で実施している、20～30代の偶数年齢の女性の子宮頸がん検診助成も実施することにより、若い世代の子宮頸がん検診受診者が増えています。 ●特定健診、後期高齢者健診等の追加可能な検診として、50歳以上の男性を対象に前立腺がん検診の一部助成を実施し、受診者が年々増加しています。また、受診者の中からは前立腺がんもしくは前立腺がん疑いの方が発見され、がんの早期発見・早期治療に結びついています。 ●後期高齢者の健康診査は、実施主体である北海道後期高齢者医療広域連合から町が委託を受け、健診に関する事務を行っており、各種がん検診もあわせて実施することにより病気の早期発見や早期治療を促進し、後期高齢者の健康増進に寄与しています。 	<ul style="list-style-type: none"> ●特定健診の受診率は、全国及び北海道平均を上回ってはいるが、「特定健康診査等実施計画」の目標値に達していないため、更なる啓蒙活動が必要になります。 ●生活習慣病治療中であっても、合併症の発症や症状の進展などの重症化を防ぐために、医療中断もしくはコントロール不良の方へのさらなる改善への保健指導の取り組みが必要になります。 ●南幌町の肥満の割合は高い傾向にあります。肥満は生活習慣病と関連が深いことから、生活習慣病予防に焦点をあてた適正な食品摂取が実践できるよう栄養指導を実施していく必要があります。 ●がん検診を受診し、早期発見・早期治療に結びつけるために、検診の必要性並びに精密検査の重要性を啓蒙していく必要があります。 ●町として生活習慣病の発症予防と重症化予防を目的として、健康保険の種類に関係なく保健指導に取り組む必要があります。 ●本町における後期高齢者の健康診査受診率は、全国平均に達しておらず、対象者への啓蒙等改善への継続した取り組みが必要となります。 	

2. まちづくりの成果指標の設定、達成状況							
① 成果指標	設定の意図		まちづくりの成果指標名			数値化	
	健診は病気の早期発見・早期治療を目的としていることから、多くの住民が受診することが望まれるため、健診対象者のうち何人が受診し何%受けたかを成果目標として設定している。		成果指標（総合計画・施策評価）			○ 可 能	
			A 各種がん検診受診率			不可 能	
			B 後期高齢者健診受診者数			未計 測	
		代替指標 ※成果指標がない場合			指標の設定		
					可 能		
					不可 能		
※施策目的(施策の意図)の達成状況を把握するための指標を記載しています。							
②指標データ	単位	過年度実績			評価年度	目標年度	
		H24	H25	H26	H27	H28	
A目標	%	別 紙					達成率増減の理由 平成27年度より開始した、「特定健診にかかる情報提供書」の提出により特定健診受診率が微増したと思われる。また、通院中の方には積極的に声掛けをして受診者数を確保している。がん検診受診率は、職場等の人間ドックで受診したものは反映されていないことも受診率が横ばいである理由と思われる。
A実績	%						
A達成率	%						
B目標	人	110	110	110	110	後期高齢者の受診数は、今年度も目標を達成しているが昨年に比べると達成率は微減している。高齢者数の増加に伴い後期高齢者医療へ移行する人数の増加、健診を受ける習慣のあった世代が後期高齢者医療へ移行しているため、継続受診者が減少したため達成率が減少したと思われる。	
B実績	人	91	139	159	156		
B達成率	%	82.4	126.3	144.5	141.8		
評価視点		評価結果				理由・課題・問題点	
③施策の達成状況	A 計画目標に向けて順調に推移 (目標達成は十分に可能である)		B		<ul style="list-style-type: none"> ・特定健診未受診者には個別に訪問や声掛けを行い少しでも受診者の取り込みを行っていく。 ・がん検診に関しては、平成28年度より自己負担額の軽減や受診券個別発送、受診医療機関の拡充を行い受診者数の向上を図る。 		
	B 計画目標に向けて概ね順調に推移 (目標達成は可能である)						
	C 計画目標に向けての進捗はやや遅れている (目標達成が遅れる可能性がある)						
	D 計画目標に向けての進捗は遅れている (目標達成は難しい)						

3. 施策を構成する事務事業の評価		
【種類】 事務事業の種類	【必要性】 事務事業の必要性	【妥当性】 町の関与の妥当性
(1) 自主事業(自主)	(1) 町が保障する町民生活の最低水準に関わるもの	(1) 町が実施主体となり、企業等が補完的な役割を行う事業
(2) 施設管理事業(施管)	(2) (1)を超えるサービスで町民ニーズが大きいと考えられるもの	(2) 実施主体は企業や町民団体等が適当であり、市が補完的な役割を担う事業
(3) 経常的事務(経常)	(3) (1)を超えるサービスで町民ニーズが小さいと考えられるもの	(3) 企業や町民団体等による実施が妥当な事業
(4) ハード事業(ハード)		

①事務事業評価結果													
事業番号	事務事業名	種類	所管課名	成果指標	評価年度(H27)		事務事業の内容	必要性	妥当性	事務事業評価結果(方向性)	事業費(千円)		施策への貢献度 <高い> <普通> <低い>
					目標	単位					H27実績	H28予算	
					実績								
1	成人保健事業	(1)	保健福祉課	健診受診者数 健診受診率 保健指導実施人数	別紙		○各種健診～特定健診(個別・集団)、若年者健診(個別・集団)、生活保護世帯健診(個別)、各種がん検診(胃・肺・大腸・乳・子宮)の実施と一部助成(ただし、20～40歳までの偶数年齢の子宮がん検診は無料)、巡回脳検診の実施 ※50歳以上の健診(特定健診、後期高齢者健診等)受診対象者への前立腺がん検診の一部助成 ○特定保健指導 ○健康教育・健康相談～各団体の健康教育・健康相談、来所相談、訪問 ○健診未受診者の実施把握 ○がん検診精密検査未受診者への受診勧奨 ○被用者保険の特定保健指導対象者への保健指導	Ⅱ	Ⅰ	1 現状のまま継続	10,277	13,037	高い
2	後期高齢者保健事業	(1)	住民課	受診者数(健康診査+人間ドック)	150	人	後期高齢者への健康診査の実施	Ⅲ	Ⅰ	1 現状のまま継続	1,418	1,596	普通

年度別施策全体の事業費合計(千円)	
H27事業費	11,695
H28予算	14,633

②H28に実施した新規事務事業					
実施計画	実施主体	事務事業名	事務事業の内容	H28予算(千円)	
1	南幌町	成人保健事業	がん検診に係る自己負担額の減額及び検診体制の拡充	10,481	
2					
3					

評価視点	評価結果		理由・問題点
③事務事業の妥当性 (手段は妥当か)	A 効果的な事業構成である。 (現状のまま継続する)	事業構成の妥当性	若い年代の健診受診率が特に低い状況である。平成28年度より、若年者健診が30歳から引き下げられたことから、若いうちから健診を受ける習慣をつけてもらえるよう周知を継続する。
	B 概ね効果的な構成である。 (一部見直し等の余地がある)		
	C あまり効果的な事業構成はない。 (見直し等の余地が大きい)	B	
	D 事業構成に問題がある。 (抜本的な見直し等が必要である)		

①総合評価 (今後の展開、事業の見直し等) 委員会評価	特に課題とすべき指摘事項はない。		事業の方向性 優先度 A～D (ランク)	事業番号					平成29年度以降 の予算の方向性	
	A									
	B	2							拡大	
	C	1							○ 維持	
	D								縮小	

成果指標	指標名	項目	H27	単位
	(内容) 健診受診者数 健診受診率 保健指導実施人数 保健指導実施率	目標値	<ul style="list-style-type: none"> ●各種健診受診者・率 <ul style="list-style-type: none"> ・特定健診688名40% ・若年者健診25名35% ・各種がん検診 <ul style="list-style-type: none"> 胃500名25% 肺600名25% 大腸600名30% 乳260名45% 子宮280名40% 前立腺がん検診(健診対象者)140名 ●特定保健指導対象者数・実施70人 (動機づけ支援50%、積極的支援40%) ●健康教育参加者50人 	人、%
	実績値	<ul style="list-style-type: none"> ●各種健診受診者・率 <ul style="list-style-type: none"> ・特定健診586名暫定37.4% ・若年者健診14名 18.9% ・各種がん検診 <ul style="list-style-type: none"> 胃433名19.7% 肺535名24.3% 大腸567名25.8% 乳255名41.0% 子宮237名32.9% 前立腺がん検診173名54.3% ●特定保健指導対象者数・実施64人 (動機づけ支援78.1%、積極的支援21.9%) ●健康教育参加者98人 	人、%	

②指標データ	単位		過年度実績		評価年度	当該年度	目標年度
			H22	H23	H24	H27	H28
A目標	%	胃がん	26.0	26.0	25.0	25.0	35.0
		肺がん	27.0	27.0	25.0	30.0	35.0
		大腸がん	28.0	28.0	30.0	30.0	35.0
		乳がん	59.0	59.0	45.0	45.0	60.0
		子宮がん	42.0	42.0	35.0	40.0	50.0
		前立腺がん	32.0	40.0	40.0	40.0	40.0
A実績	%	胃がん	22.0	22.0	21.1	19.7	
		肺がん	24.2	22.7	23.5	24.3	
		大腸がん	25.2	27.7	26.3	25.8	
		乳がん	49.6	43.0	41.2	41.0	
		子宮がん	35.3	34.6	37.3	32.9	
		前立腺がん	31.7	49.0	55.0	54.3	
A達成率	%	胃がん	84.6	84.6	84.4	78.8	
		肺がん	89.6	81.5	94.0	81.0	
		大腸がん	90.0	98.9	87.7	86.0	
		乳がん	84.1	72.8	91.6	91.1	
		子宮がん	84.0	82.3	106.6	82.3	
		前立腺がん	99.1	122.5	137.5	135.8	

・前立腺がん検診～特定健診・後期高齢者健診受診者のうち、前立腺がん検診を受診した者の割合